

幼稚園・小中高等学校の再開手順: 付録 T1

最近の更新 - (変更箇所は黄色で強調表示されています。)

1/17/22

- サージ(感染者の急増)プロトコルを実施中です: 著しい COVID-19 症例と接触者数の急増に対応するため、一時的な予防策が実施される場合があります。これには、[付録 T2: 幼稚園・小中高等学校向け感染管理計画](#)に記載されている症例の識別を簡易化する方法や感染管理の検討を含みます。
- ワクチン接種または過去 90 日間の COVID-19 感染の有無に基づいた学生とスタッフの検疫と検査の必須条件が変更されました。
- メガイベントに区分される参加人数が、屋外では 5,000 人以上、屋内では 500 人以上に変更されました。

1/4/22

- 生徒の屋内外におけるマスク着用の要件に関する説明を明確化しました。

ロサンゼルス郡公衆衛生局 (DPH) は、トランジショナル・キンダーガーテン(TK)から高等学校までの学校が安全に教育を再開できるよう、科学と公衆衛生の専門知識に基づく段階的アプローチを試みています。州公衆衛生担当官とカリフォルニア教育省によって学校に課せられた条件に加え、学校は職員と生徒の安全と感染防止対策にも準拠する必要があります。

注: 本文書は、追加情報やリソースが入手され次第更新されることがあるため、ph.lacounty.gov/Coronavirus/にアクセスして、本文書の更新についてご確認ください。

本文書は始めにロサンゼルス郡 (LAC) に於ける校内教育に関する現在の規定について説明し、次いで学校環境に特化した安全戦略に関する情報を提供しています。

TK-12再開チェックリストは、以下の5つの領域の安全対策を提供しています。

- (1) 職場に於ける職員と生徒の健康を保護するための方針と実践
- (2) 可能な場合は物理的距離をとるための措置
- (3) 感染防止を能率的に行うための対策
- (4) 職員、生徒とその家族、及び市民とのコミュニケーション
- (5) 重要なサービスへの平等なアクセスを確保するための対策

これらの5つの主要領域は、あなたの施設が全ての職員、生徒、訪問者へ安全な環境を提供するための計画を開発する時に、学校が実行する可能性のある複数の戦略を含みます。全ての学校は現在いくつかの予防策と保護策を取ることが必須であり、それらは以下に明確に表示されていますが、ほとんどの予防策は任意であり、自由意志によるものです。それでもなお、学校を再開しつつ、学校がキャンパス内で症例や拡散を制限するために複数の COVID-19 緩和戦略を実行することが適切です。関連する[付録 T2: 幼稚園・小中高等学校での感染管理計画](#)に記載されている追加の予防策も実行しなければならず、現場にいる全ての人に適用されます。幼稚園、小中高等学校向けのさらなるリソースは、[TK-12 学校向け COVID-19 ツールキット](#)をご覧ください。

すべての学校向け再開のための一般的なガイダンス

現在の時点で、TKから12までの全ての学年の生徒にどの学校も再開することが許可されています。

学校内にある保育プログラムに関する注意事項。校内キャンパスで児童にデイケアサービスを提供する地方教育エージェンシー (LEA) および学校は、[ECEプロバイダー向けのDPHのガイダンス](#)を参照する必要があります。

COVID-19 ワクチン接種が一次予防手段です

貴校のワクチン接種率を上げることが、校内での感染リスクを下げ、ワクチン接種済み層の重症化、入院および死亡リスクを大幅に低減し、ワクチン接種完了が困難な方、免疫不全症の方、もしくは基礎疾患のある方の保護を強化する最良かつ第一の手段です。そのため、本プロトコルに記載の全推奨事項と全要件に加えて、ワクチン接種及びブースター接種対象者の全職員および全校生徒・児童の接種の常態化・促進支援戦略を各校にて採用することを要請します。校内にワクチン接種会場を設置する場合の最良実施例を含む段階的な指導書 [ロサンゼルス郡公衆衛生局ワクチン接種会場ツールキット学校用](#) をご覧になってください。2021年8月11日付のカリフォルニア州発行 [衛生担当官命令](#) により、全職員はワクチン接種完了証明の提示もしくは最低週1回検査を受けることが義務付けられています。州はまた、FDAが学年層（7-12年生及びK-6年生）へのワクチン接種を完全に承認した場合、それ以降の学期からは対面式授業に出席するにあたり、生徒へのワクチン接種の義務付けを発表しました。

幼稚園・小中高等学校の再開チェックリスト

機関名:

住所:

消防法に基づく最大収容人数:

教員及び/または生徒に公開されている場所の
概算総敷地面積:

許可されている生徒向けの対面式サービス再開をサポートするために出勤する管理者、教員、及びその他の職員の推定総数:

登校する生徒の学年別推定人数 (いない場合は0を記入):

TK: _____ K: _____ 1: _____ 2: _____ 3: _____ 4: _____ 5: _____
6: _____ 7: _____ 8: _____ 9: _____ 10: _____ 11: _____ 12: _____

注: 「職員」及び「スタッフ」という用語は、本手順で、教育、コーチング、学生サポート、個々の学生への治療または個人的援助の提供、施設の清掃またはメンテナンス、総務、または学校が機能するために必要なその他の活動に関連するあらゆる面に於ける学校施設で働く個人を指すために使用される。「職員」または「スタッフ」には、関連する学校システムによって直接支払われている、学校の請負業者として機能している企業、団体、機関などのエンティティによって支払われていたり、学生にサービスを提供するために学校と協力して行動している外部エンティティによって支払われていたり、または個々の学生サービスを提供するために第三者によって支払われていたりする個人や、学校の指示の下に必要な機能を実行するために活動したりする無給のボランティアが含まれる場合もある。本手順では、「保護者」という用語は、学生の扶養者または保護者としての役割を果たす人を指すために使用される。

A. 職場に於けるスタッフ（“職員”）と学生の健康を保護するための方針と実践
（該当するものをすべて選択）

学校は、キャンパスでの COVID-19 の蔓延を防止及び抑制するための包括的なアプローチについて COVID-19 の封じ込め、対応及び管理計画を立てなければならない。その計画には以下の要素が含まれるが、これらに限定されるものではない。

- COVID-19 に関するすべての安全手順を確立して実施し、スタッフと学生が COVID-19 に関する教育を受けることの責任を負う、指定された COVID-19 コンプライアンスチーム。このチームのメンバー1名をキャンパスで発生した場合の公衆衛生局への連絡担当者に指名する。
- 学校コミュニティのメンバー（教職員、学生、訪問者）の誰かが COVID-19 検査で陽性判定であったことを学校関係者に通知した直後に実行される処置の計画または手順。
- 計画は以下を示す：
 - 現場での症例発生の通知があった場合、該当者を学校のコミュニティから即座に離れさせ、自宅で自主隔離させる。計画は、該当者が帰宅するために手配が必要な場合、現場にてその個人を一時的に隔離する必要がある。
 - 自主隔離に関する規制と詳細情報を含むサイトへのリンクを含むファクトシートまたはその他の情報資料を該当者（感染者が子供である場合は適切な家族）に提供する。
- 以下の手順を概説する公衆衛生局のガイドと一致する[学校内感染管理計画](#)を開始するための計画または手順：
 - 感染者の隔離
 - 学校で感染者と接触した人の特定
 - [付録 T2：幼稚園・小中高等学校向け感染管理計画](#)に記載されているガイドラインに従った感染者と接触のあった職員および/または学生の検疫措置。
 - [ワクチンの接種を完了していない学校内で感染者と接触したすべての学生と、ワクチン接種を完了していない、またはワクチン接種を完了していてブースター接種対象者であるがまだ受けていない全ての感染者と接触した職員の検査へのアクセスの保証。](#)
 - 発症前 14 日間以内のいずれかの時点で学校に通っていた職員及び子供の間で確認されたすべての COVID-19 感染者の公衆衛生局への通知。発症日は、COVID-19 症状が最初に現れた日、または COVID-19 検査日のいずれか早い方とする。症例の通知は全て、受けてから 1 営業日以内に送信する必要がある。これは安全なウェブアプリケーション <http://www.redcap.link/lacdph.educationsector.covidreport> の利用、または[教育セクター向け COVID-19 症例及び接触者ラインリスト](#)をダウンロードして記入し、ACDC-Education@ph.lacounty.gov に送信することにより、完了することができる。[注：現在の学校でのサージプロトコルの実施は、症例通知方法にいくつかの柔軟性を与えています。詳細は付録 T2：幼稚園・小中高等学校向け感染管理計画をご覧ください。](#)
 - [著しい COVID-19 の急増による症例数に対応するため、付録 T2：幼稚園・小中高等学校向け感染管理計画に記載されている一時的な予防対策が症例と感染を管理するために実施される場合がある。これらはオプションである：可能な限り、学校は急増期間中に一般的な感染管理手順に継続して従うことができる。](#)
- 感染者のクラスター（14日間以内に3件以上の症例）を直ちに公衆衛生局に報告する計画。これは、上記と同じ報告方法を使用して実行できる。

(1) <http://www.redcap.link/lacdph.educationsector.covidreport> からオンラインでレポートを送信する、または (2) [教育セクター向け COVID-19 症例及び接触者ラインリスト](#) に記入し、それを ACDC-Education@ph.lacounty.gov に送る。公衆衛生局は学校と協力して、クラスターが公衆衛生の集団発生への対応を必要とするものであるかどうかを判断する。
- 学校または地域での集団発生に基づき、対面式による学校運営を完全または部分的に閉鎖する必要がある場合の緊急時対応計画。

- 通常の学校運営にCOVID-19検査を取り入れるための計画または手順。
 - 少なくともこの計画では、症状のある、または SARS-CoV-2 感染者との接触が判明している、もしくはそれが疑われる学生または職員の検査へのアクセスを確保するための戦略を説明する必要がある。注：Cal/OSHA の COVID-19 予防緊急一時標準 ([Cal/OSHA ETS](#)) は、以下の人物に対して、雇用者が有給中の職員に無料で検査を提供することを必須としている：
 - 感染者との接触の有無に関わらず、ワクチン接種をしていない感染症状のある職員
 - 感染者と接触のあったワクチン接種をしていない職員
 - ワクチン接種を完了しているが感染者と接触後に症状が出た職員
 - 集団感染発生後（3 件以上の職員の症例）のワクチン接種をしていない職員
 - 大規模な集団感染発生後（20 件以上の職員の症例）の全ての職員
 - 学校は、ワクチン未接種、またはワクチン接種を完了していないウイルスに晒された学生とスタッフを、最後にウイルスに晒された日から 10 日以内に少なくとも週 1 回検査するために、冬休みが終わってから 2 週間、または 2022 年 1 月 25 日のどちらか遅い方までに、十分な検査能力を備えていることが必須となる。この必須条件を満たすための検査能力がない場合、公衆衛生局に直ちに連絡する事。リソースがある場合、学校はワクチン接種を完了しているウイルスに晒された学生とスタッフにも検査を行うべきである。
 - さらに、学校は、感染者との接触の有無が不明な無症状の個人を定期的に検査するための戦略を検討しても良い。カリフォルニア州公衆衛生局（CDPH）は、現時点では無症状者向け検査に関する特定の頻度や手順を要求していない。ただし、州は補足的な検査用品、発送、検査機関の検査能力、登録と報告の技術、訓練、及び保険償還の支援を通じて特定の検査頻度へのサポートを実施している。学校は、州の [みんなのための安全な学校ハブ](#) から学校中心の検査に関する情報とリソースを入手することが推奨される。地域における感染率が高い期間、LA 郡は、リソースが許す限り、定期的な検査にワクチン接種完了者を含めることを推奨している。注：現在のパンデミックの急増における症例と接触者の数や検査の需要を満たすことが困難なことを考慮すると、今はウイルスに晒された症状のある個人への検査が優先されるべきである。学校内で大規模な、または繰り返し感染が発生している場合、その頻度が減るまで、ワクチン未接種、またはワクチン接種を完了していない学生に対し毎週検査を行うことを検討する。追加情報は [付録 T2：幼稚園・小中高等学校向け感染管理計画](#) をご覧ください。
 - 計画は、すべての検査結果を公衆衛生局に報告する必要がある。
 - 注意：過去 90 日以内に検査機関で COVID-19 感染者と確認された後に回復した人や、無症状の人にはスクリーニング検査は推奨されません。
- 体の弱いスタッフ（ワクチン接種を完了していない 65 歳以上、及び/又は、感染した場合に重症化するリスクの高い慢性疾患のある人）には、可能な限り在宅勤務で行うことができる作業を割り当てることを検討する。職場復帰を検討する際は、懸念事項について医療従事者や産業保健サービスに相談し、適切に判断する。
- 職員が在宅で働く機会を増やすため、業務プロセスを学業の要件と学生のニーズに一致する範囲で再構成することを検討する。
- すべての職員は、病気の場合出勤しないように指示されている。学校関係者は、[雇用主または政府支援の休暇給付](#)に関する情報を職員に提供している。
- COVID-19 感染者に晒された、または晒された疑いのある職員は、[付録 T2：幼稚園・小中高等学校向け感染管理計画](#)に記載されている検疫ガイダンスに従う必要がある。
- 学校以外の目的での学校施設の使用（コミュニティミーティングやイベント、学生またはスタッフでない人々による現場のクリニック訪問など）は許可されている。学校の屋内施設の使用は屋内空気と表面の汚染の高リスクにつながるため、通常の職員や生徒への必要のない接触を避けるための方法を取る必要がある。学校外のグループによる屋内施設の使用の後に、定期的に清掃することが推奨される。通常の職員と生徒への必要のない接触を避けるための方法を取っている場合のみ、学校以外の青少年スポーツチーム、リーグ、またはクラブによる屋外運動場の使用は許可さ

れる。

- 職員が職場に入る前に**職員のスクリーニング検査**を行うことが推奨される。スクリーニング検査には咳、息切れ、呼吸困難、発熱または悪寒の有無、及びその個人が現在隔離・検疫命令下にあるかどうかを含む必要がある。可能な場合、検温の実施が推奨される。
 - これらの確認は、職員がサイトに到着したときに直接行うことも、デジタルアプリまたはその他の検証可能なアプローチを使用して到着前に遠隔操作で行うこともできる。
 - 注意：現在の**Cal/OSHA ETS**は雇用者がCOVID-19の感染症状を持つ、及び/又はワクチン接種を完了しておらず、感染者と濃厚接触をした職員を職場から除外することを必須としている。Cal/OSHAは職員の症状確認に対する特定の方法を指示していないものの、推奨されている方法を実行することは、現在のETSに従うことに役立つ。
- 学校の施設や交通手段（スクールバス、校舎、校庭）に入る者は、他者（学生、保護者、その他の職員）と接触する場合、マスクの着用が義務付けられる。
 - 勤務中に他者と接触する職員に鼻と口を覆う適切なフェイスマスクを無料で提供している。就業中他者と接触するまたはその可能性がある職員は常時マスクを着用しなければならない。医療従事者からマスクを着用すべきでないという指示された職員は状況が許されるときにはドレープが下の端についたフェースシールドを着用しなければならない。ドレープはあごの下にぴったりフィットするものが好ましい。一方向の抗弁（バルブ）のあるマスクは使用してはならない。
 - マスクの着用を免除されている従業員は、COVID-19に対するワクチン接種完了及び対象者になった場合にブースター接種完了の証明書を提供しない限り、少なくとも週に2回COVID-19検査を受けなければならない。地域における感染率が高い期間、LA郡は、リソースが許す限り、この定期的な検査にブースター接種の有無に関わらず、ワクチン接種完了者を含むことを推奨している。
 - **すべての学校職員へのアップグレードされたマスク提供の義務化**：現時点では、上記で定義されているように、すべての学校職員は、サージカルマスク（医療用マスクとも呼ばれる）またはより高いレベルの個人保護具（PPE）（KN95またはN95高性能マスクなど）を着用しなければならない。医療用マスクを着用する場合は、保護を強化するために、医療マスクの上に布製マスクを着用する二重マスクが推奨される。布製マスクのみの着用は、適切な医療用マスクや高性能のPPEと同じレベルのソース管理や個人保護を提供しないため、認められない。本指令はできるだけ早い時期に実施されるべきであるが、休日明けの学校の再開日から2週間以内、または2022年1月17日のどちらか遅い方までに遵守されることが求められる。
 - 雇用者は要求された場合にワクチン接種をしていない職員に医療用マスクを提供し、マスクの適切なフィットの確認方法を指示する必要がある。
 - ドアが閉まっているプライベートオフィスで一人で作業している、複数の従業員のための広いオープンワークスペースに唯一人である、または飲食している場合を除き、すべてのスタッフは屋内にいる時は常時マスクを着用しなければならない。
 - 学校のキャンパス内では、飲食する場合を除き、混雑した屋外スペースで物理的距離を簡単かつ確実に維持できない場合、すべてのスタッフが屋外でもマスクを着用する必要がある。
 - 生徒は少なくとも、布ではなく不織布を複数枚重ねてできたノーズワイヤーの付いた顔によくフィットする、より性能の高いマスクを着用することが強く推奨されるが、必須ではない。本プロトコルにおいて、学校が一般生徒にアップグレードしたマスクを提供することを要求するものはない。ただし、**現在でも、学校のキャンパスの屋内外の両方のスペースでは、適切なタイプのフェイスカバーを使用したユニバーサルマスク着用が必要である**。飲食をしている場合や、物理的距離を確実に確保できる屋外スペースにいる場合などは例外となる。
 - 最新のロサンゼルス郡公衆衛生局ガイドとマスク着用の情報については、[COVID-19 マスク](#)のページを参照す

ること。

- 個別教育または504プランを利用している医療問題の理由によりフェイスマスクを着用または許容できない学生に対応するために、代替の防護対策をとる。マスクを安全に着用できない障害または状態であることを示す適切な書類を提示する生徒については、状態が許せば、下部にドレープが付いたフェイスシールドを着用させる。フェイスシールドやドレープを使用できない状態であることが書類に記載されている場合、生徒は、学校または地区に合理的配慮を要求することができる。マスク着用を不可能にする健康状態、精神健康状態、障害もしくは聴力障害による例外の評価は医療判断であり、よって医師、看護師、もしくは医師の資格のもとに活動する医療従事資格保有者が実施しなければならない。前述の状態に基づく自己申告や保護者による申告は、医療判断とは見なさない。適切に書面化された医療免除書のみが学校屋内でのマスク着用の必須条件を学生が免除される理由として受け入れられる。マスク着用に対する個人的信念や宗教上の理由は免除の対象にならない。
 - 屋内でのマスク着用を免除されている学生は、COVID-19に対するワクチン接種完了（および対象者はブースター接種）の証明書を提供しない限り、少なくとも週に2回COVID-19の検査を受けることが強く推奨される。地域における感染率が高い期間、LA郡は、リソースが許す限り、この定期的な検査にワクチン接種完了者及びブースター接種完了者を含めることを推奨している。
 - 公立学校は、2021年から2022年の学年度に独立した学習プログラムを提供するためのAB130に記載されている要件を認識する必要がある。
- 従業員には、フェイスマスクを毎日洗濯、または交換するように指示し、保護者には、子供が清潔なフェイスマスクを保持するよう指示することを推奨している。
- マスクが常時正しく着用されているようにするために、従業員は、マスクを安全に取り外して他の人から物理的に離れることができる休憩時間を除き、飲食を控える。屋外で飲食することが推奨されるが、屋内のキュービクルやワークステーション（個人の仕事・作業場）が従業員間により広い距離や仕切りを許容している場合は、休憩室で食事をするよりも、キュービクルやワークステーションで飲食することが好ましい。
- 特にワクチン接種を完了していない、又はワクチン接種の有無がわからない従業員とスペースを共有する場合、従業員が食事や休憩に使用する部屋やエリアの場所を拡大することを検討する。
- すべての職員、現場の請負業者、ベンダー、及び配送担当者には、屋内で他者が周囲にいる際にフェイスマスクの着用が指示されている。
- 休憩室、トイレ、教室、及びスタッフが使用または訪問するその他の公共エリアは、以下の頻度で清掃される必要がある。運営時間中は少なくとも1日1回、又はそれ以上の回数で定期的に清掃を行うことが推奨されている。
- 休憩室 _____
 - トイレ _____
 - 教室 _____
 - 実験室 _____
 - 看護師のオフィス _____
 - カウンセリング及びその他の学生サポートエリア _____
 - フロントオフィス _____
 - その他のオフィス _____
 - その他（講堂、体育館、使用中の図書館） _____
- スタッフの休憩室の頻繁に触れる場所は少なくとも1日1回清掃されることが推奨されている。
- すべての職員は COVID-19 に対して効果的な手指消毒液を以下の場所で利用できるようにすることが推奨されている

る。(該当するものをすべて選択)

- 建物の出入口 _____
- メインオフィス _____
- 階段の入り口 _____
- エレベーターの入口 (該当する場合) _____
- 教室 _____
- 教員休憩室 _____
- 教員室 : _____

- 職員は頻繁に石鹸と水で手を洗う機会を与えられることが推奨されている。
- 本手順のコピーをすべての従業員に配布する。
- オプション - その他の対策の説明 :

B. スタッフ、学生、訪問者による推奨されている物理的距離を確保し、人混みを避けるための対策 (該当するものをすべて選択)

注 : LACDPH は、就学児童が全授業への出席を妨げられることなく、物理的距離を確保できる対策の実施を推奨しています。これは、生徒の集団が教室の外にいる場合 (廊下での移動時など) や、物理的距離を広げることが望まれるマスクを取り外す必要がある集団環境 (昼食時間、休憩時間など) では特に重要です。物理的距離を置くことが不可能な場合 (教室が満員の場合など)、全員がマスク着用を順守することが重要です。

- 施設内で許可される最大職員数は: _____
- スクールバスやバンに乗車中は、常にフェイスマスクの着用が義務付けられる。
- 多くの学生がワクチン接種をしていないため、スクールバスでの学生の物理的距離を促すための措置を確保することを検討する。これには以下が含まれる (該当するものすべてを選択) :
- バスの座席 1 席あたり 1 名の子供の着席が許可される。 _____
 - 交互に列を使用する。 _____
 - 空気の質と乗客の安全上の心配が無い場合は窓を開ける。
- 物理的距離を確保し、スクールバス内の乗員数を減らすために検討すべき追加の対策 (該当するものをすべて選択) :
- 学校の始業時間と終業時間に各バスが複数回運航できるようにするために始業時間をずらす。 _____
 - 保護者が生徒の車で送迎を簡単にできるようにするための措置の実施。たとえば、職員の立ち会いのもと開門を早める、学校での短期駐車時間を拡大する、生徒を車から降ろす場所に職員が配置し、生徒の下車から校内に入るまでを安全に進行するなど。 _____
 - 年齢に応じた学生の安全な通学を促す対策の実施。これには学校への集団徒歩通学のための安全な通学路、交通指導員の使用、自転車の安全性及び自転車ルートの計画などが含まれる。 _____
 - 保護者は学校の担当者と協力して、代替の交通手段が適切に監視され、物理的距離とフェイスマスクの着用に関する手段が組み込まれていることを確認する。
 - 建物施設は、自転車通学を支持しており、可能な場合は駐輪場の収容台数を増やす。
 - その他: _____

- 生徒、保護者、または訪問者が到着し校内に入り、校内を移動する際に、人混みを避ける方法を実行することを検討する。これには以下が含まれる（該当するものすべてを選択）。
- 共有スペースでの混雑を避け、可能な場合は、特定の時間に1つのコホートや一定のグループが共通のスペース（廊下やバスルームなど）を移動するようにスケジュールを調整する。_____
 - 学校職員を廊下に配置して、登校してきた生徒が物理的距離の確保と、大人数で集まったりうろついたりしない様注意を促し、教室へ向かうようにさせる。_____
 - 混雑を避けるためにエレベーターの定員数を減らす。すべての乗員は、フェイスマスクを着用する。

 - 階段の混雑を防ぐため、以下の対策を実行することが出来る：
 - 階段の昇降を指定する _____
 - 授業間の休憩時間をずらす _____
 - 学校職員による階段の監視 _____
 - その他： _____
- 学校全体で安定したグループを作り、それを保つアプローチが採用されており、監督者の大人と児童ができるだけ多くのアクティビティ（例：食事、レクリエーション）を一緒にいき、学校での1日を通して、環境の中でグループ外の人との混ざること避ける。安定したグループは全ての学年の生徒に対して最適だと考えられており、必須ではないが推奨されている。
- 必要な限り、適切なレベルの指導とケアを提供できるよう、特別なサービスを必要とするIEPまたは504プランの学生は、通常授業の教室から連れ出して、同様のサービスを必要とする他の学生と一緒にグループにすることができる。
 - IEPまたは504プランで生徒を担当したり、専門的なサービスを提供する専門スタッフは、授業時間中に異なる安定したグループを担当する必要がある、これに対して対応がなされなければならない。ワクチン接種を完了していないスタッフは、この目的で複数の教室に入室する場合は必須とされる医療用マスクに加えてフェイスシールドを着用することを検討する。すべてのスタッフに、教室を出た後、別の学生グループと一緒に別の教室に入る前に、手洗いまたは手指消毒を行うように促す。
- 教室内で推奨されている物理的距離を可能にする対策を実施することを検討する。これらには以下の方法が含まれる（該当するものすべて選択）：
- 教室内の家具は、生徒間と、生徒と教師間の距離を最大に保てるように設置する。最善方法として、「ポッド」形式で席を設置することは避ける。距離を取ることが不可能な場合は、マスク着用に焦点を置くなど、他の安全対策を検討する。
 - 安定したグループや換気を改善するなど、その他の緩和策を強化することを検討する。
 - 生徒やスタッフがマスクを着用していない場合（例：飲食中や昼寝中）は、可能な限り物理的距離を拡大する。
 - 教室内の昼寝または休憩場所では、生徒間の間隔を広げ、足と頭が交互になるようにして休ませる。
 - その他： _____
- 体育の授業は可能な限り屋外で行い、物理的距離を確保できるアクティビティの選択を提供することを検討する。屋内で体育の授業を行う場合は、水を飲む場合を除き、その場にいる全ての人々がマスクを着用する。
- 学校の方針は、ロッカールームでの物理的距離を促すものを実行することを検討する。方針には以下が含まれる。
- スタッフによる監督が可能な場合にのみロッカールームへの出入りを許可する。ロッカールームへの出入りをずらす。学生と学生選手がロッカールームで過ごす時間を制限することを検討する。例えば、学生選手が

練習や試合の後に自宅でシャワーを浴びることを提案する。

- 学生服、本、その他のアイテムを保管するための代替方法を考案する。
- 生徒がマスクを着用しない学校での食事中に物理的距離を増加するための対策を検討する。これらには以下が含まれる（該当するものすべてを選択）。：
 - 異なる教室からの安定したグループの学生が接触することがないように、教室や屋外で食事をとる。

 - 生徒が食品を取るために並ぶ場合は、テープまたは他のマーキングを使用して、生徒間の距離を置くことを促す。_____
 - 食事中にスタッフを配置し、距離を確保し、異なる安定したグループの学生が混ざらないようにする。
 - 食堂で食事をとる場合、どの時点においても食堂内のグループの数を常時減らすために食事時間をずらす。

 - 食事を食堂でとる場合、テーブルや椅子の間のスペースを拡大して、食事中に生徒が距離を保てるようにする。距離を置くことが不可能な場合は、代わりにテーブル又は椅子の間に仕切りを使用する。_____
- 学生サポートサービスに使用される学内エリアでの物理的距離を促すための措置を取ることを検討する。
 - 学校職員（看護師、指導カウンセラー、セラピストなど）や付属のサポートプログラムの職員（臨床医、健康教育者など）を含む学生サポートスタッフに、学生サポート業務に従事する際、可能な場合、物理的距離を維持するように促す。
 - 学生サポートサービスに使用される学内エリアの家具と設備は、任意の2人の学生間及び/または学生とスタッフ間の距離を確保するように配置される。
 - 用具や消耗品の共有は可能な限り避ける。
 - 学生サポートサービスを提供するスタッフには、カリフォルニア州の労働安全衛生局（Cal/OSHA）の要件に応じた適切な個人用防護具（PPE）が提供される。

C. 感染防止対策（施設に該当するものをすべて選択）

- 生徒、訪問者、及びスタッフが学校に入る前に症状スクリーニング検査を行うことが推奨される。スクリーニング検査には COVID-19 感染症の恐れがある症状の一致、及びその個人が経験しているその他の症状を含める必要がある。これらの検査は遠隔（デジタルアプリを使用）か、個人の到着時に直接行うことができる。可能な場合、症状スクリーニング検査の一環として、特に体系的な在宅スクリーニングプロセスに参加していない可能性のある訪問者には、来校時に非接触式体温計を使用した検温の実施を含めることができる。
 - 来校時のスクリーニング検査で陽性と判定された、または在校中のいずれかの時点で症状を報告した生徒、スタッフ、及び訪問者は、COVID-19 コンプライアンスチームに報告する（セクション A を参照）必要がある。COVID-19 コンプライアンスチームは、教育機関に於ける[症状及び曝露スクリーニング経路](#)に関する公衆衛生局のガイダンスに従って、個人を施設から帰宅させる必要があるかどうかを決定する。陽性と判定された生徒には推奨される品質のマスクをすでに着用している場合を除き、医療用マスクを提供し、事前に確保しておいた隔離スペースに移動させ、帰宅させるかどうかの決定を行い、帰宅させる場合は帰宅の手配が整うまでその場所で待機させる。
 - 公衆衛生局の症状及び曝露スクリーニング経路に従って、COVID-19 の可能性と一致する症状について陽性と判定された個人と濃厚接触した生徒、スタッフ、及び訪問者に、ウイルスに曝露された可能性を通知する。これらの個人は、COVID-19 診断ウイルス検査で陽性であるか、医療従事者による臨床診断によってウイルスにさらされたという確認がない限り、検疫する必要はない。感染者との接触が確認された生徒

は、その後教室内に留まるための基準を満たさない限り（感染者と接触のあった後に教室内に留まる学生は、布ではなく不織布を複数枚重ねてできた、ノズワイヤー付きの顔によくフィットするマスクを着用しなければならない）、事前に確保しておいた検疫スペースへと同行し、帰宅の手配が整うまでその場所で待機させる。このスペースは、症状のある学生のためのスペースとは異なる。このスペースは個室、もしくは同じ部屋内を仕切りで区切って使用する。帰宅後、該当者は衛生担当官検疫命令の指示に従って自己検疫をすることが指示されている。

- 成人及び、中・高等学校生の症状スクリーニング検査には、過去 10 日間に COVID-19 検査結果が陽性と判明している個人に家庭や学校、その他の場所での濃厚接触の有無に関する質問が含まれる必要がある。
 - 最近のウイルスへの曝露でスクリーニング検査を受け、感染者との濃厚接触を報告した人は、[付録 T2: 幼稚園・小中高等学校における感染管理計画](#)に記載されている指示事項に従って管理を行う。
- スタッフや生徒以外の個人の訪問による感染のリスクを制限するための対策を行うことを検討する。これらは以下が可能性として含まれる（該当するものすべてを選択）：
 - 訪問者は、接触者追跡の目的で将来的にこれらの情報が必要になる場合に向けて、訪問者の名前、電話番号、メールアドレスを含む訪問者ログに登録する必要がある。訪問者が他者を同伴する必要がある場合（翻訳サポート目的、または訪問者が未成年であるか、未成年の生徒がいる場合など）、その情報も訪問者ログに記録する。_____
 - 安定した学習グループとの必要のない対面を避けるため、校内の訪問者の移動は、受付またはロビーエリア、オフィス、会議室、公衆トイレなどの指定されたエリアに可能な限り制限することが最善である。_____
 - 学校に到着した来訪者に、学校にいる間は常時フェイスマスクの着用が必要であることを説明している。これはすべての成人と 2 歳以上の子供に適用される。医療従事者からフェイスマスクを着用しないように指示されている従業員は、状態が許す場合に限り、下端にドレープが付いたフェイスシールドを着用する必要がある。一方向弁付きのマスクは使用してはならない。ドレープはあごの下にフィットするものが推奨される。職員と他の来訪者の安全をサポートするために、フェイスマスクを持参せずに到着した来訪者が利用できるフェイスマスクを用意する。訪問者と学校全体の安全のために、訪問者がキャンパスにいる間は、サージカル（または医療用）マスクや高性能の PPE などの性能の高いマスク（例：KN95 または N95 高性能マスク）の着用が推奨されるが、現時点では必須ではない。_____
- 校内の最適な換気を促進するための対策を講じることが強く推奨されている。これらには以下が含まれる（該当するものすべてを選択）：
 - 教室での学習、食事、及びその他の活動は、状況や天候により可能な範囲で屋外スペースで行う。_____
 - 学校の HVAC システムは正常に機能している。学校を再開する前に、HVAC システムは、米国暖房冷凍空調学会（ASHRAE）によって設定された学校再開のガイダンスに精通した適切な技術者によって評価されることを検討する。_____
 - HVAC システムは、屋外の状態（最近の火災、非常に高い外気温、高い花粉数など）が不適切でない限り、屋内/屋外の空気の入替えを最大化するように設定する。_____
 - 可能であれば、ポータブルで高効率の空気清浄機を設置する。_____
 - 実行可能、及び屋外の状況によってこれが適切である場合、ドアと窓は、学校のある時間中開けたままにする。耐火ドアの閉鎖を要求する既存の消防規則を尊重すること。_____
 - 空気フィルターをより高い効率のものへアップグレードしている（MERV-13 かそれ以上のものが好まれる）。_____
 - 収容人数の多さと感染リスクの高い活動がコートで行われるため、体育館の換気を改善することは、高リスクの競技の結果として発生するウイルス感染や集団感染のリスクを下げるための重要な戦略である。フロアレベルでの換気を改善するための扇風機の使用は、このリスクを軽減する上で大きな効果をもたらす場合がある。詳細なガイダンスについては、[体育館における換気の実践](#)を参照のこと。_____

- その他： _____
- 校内全体のスペース、表面、及び物体の適切な洗浄と消毒を促すための対策を講じることを検討する。これには以下が含まれる場合がある（該当するものすべて選択）。
- 清掃製品の使用不足と使い過ぎの両方を避けるために、洗浄と消毒のスケジュールを設定する。 _____
 - バスは COVID-19 の症状を示している個人を搬送した後、毎日徹底的に清掃及び消毒する。運転手には、運転中に必要に応じて表面の消毒を支援するために、除菌用ウェットティッシュと使い捨て手袋が提供されている。頻繁に触れる物の表面は毎回運行ルートを完了する度に清掃する。 _____
 - 共有エリアとそれらのエリアで頻繁に触れる物の表面（テーブル、ドアノブ、電灯のスイッチ、カウンター、取っ手、机、電話、キーボード、エレベーターのスイッチとボタン、タッチスクリーン、プリンター/コピー機、つかまり棒、手すりなど）は、少なくとも毎日、適切な製品のリソースが許す場合は、より頻繁に清掃する（以下を参照）。 _____
 - 水飲み場は利用可能になる。レジオネラ症やその他の水に関わる病気を最小限に抑えるため、全ての水システムと機能（例：水飲み場、装飾用噴水）が長期の施設閉鎖の後に安全に使用できることを確認する必要がある。これは適切なフラッシングと、追加の清掃ステップ（消毒を含む）を必要とすることを含む。アメリカ疾病予防管理センターの長期閉鎖、又は運営減少後の建物再開のガイド <https://www.cdc.gov/coronavirus/2019-ncov/php/building-water-system.html> をご覧ください。 _____
 - 個別の代替手段が実現できない場合、例えば、複数の生徒が用具を使用しなければならない可能性がある実験室や美術室では、その物と表面を使用者間で消毒する。 _____
 - COVID-19 に対して有効な洗浄製品（環境保護庁（EPA）承認リスト「N」に記載されている）は、製品の指示に従って使用する。EPA 承認の消毒剤が利用できない場合は、代替の消毒剤を使用する（例えば、1/3 カップの漂白剤と 1 ガロンの水の混合液または 70% アルコール溶液）。呼吸が非常に危険になる可能性のある有毒ガスが発生するため、漂白剤やその他の洗浄及び消毒製品を混合しないこと。 _____
 - 学校の表面と物の清掃・消毒を担当する用務員及びその他のスタッフは、製造元の指示事項、及び該当する場合は学校保健法により求められている Cal / OSHA の安全使用のための要件に関するトレーニングを受けている。 _____
 - 清掃・消毒を担当する用務員及びその他のスタッフは、製品の使用に必要な手袋、眼と呼吸の保護及びその他の適切な保護具を含む適切な個人用保護具を装備している。 _____
 - すべての掃除用洗剤は子供の手の届かない、立ち入りが制限されたスペースに保管されている。 _____
 - 清掃及び消毒中は、可能な限り最大限に換気を行う。エアコンを使用している場合は、新鮮な空気を取り込む設定を使用する。エアフィルターとろ過システムを交換して、最適な空気品質を確保する。 _____
 - 校舎の清掃の強化、及び消毒は、生徒が学校にいない時間帯で、学校が始まる前に室内の空気を排気するために十分な時間があるときに行う。 _____
 - 長期間にわたる施設の閉鎖後、すべての給水システムと洗面台が安全に使用できるように、レジオネラ症や水に関連するその他の病気のリスクを最小限に抑えるための対策が講じられている。 _____
 - トイレ、ロビー、休憩室、ラウンジ、その他の公共エリアは以下の頻度で清掃される。定期的清掃は運営時間中、少なくとも 1 日 1 回の頻度、又はそれ以上の頻度で行われることが推奨されている：

- トイレ _____
- ロビー/入口エリア _____
- 教員/スタッフ休憩室 _____
- 教室 _____
- 食堂内飲食エリア _____
- 食堂調理場 _____
- フロントオフィス _____
- その他のオフィス _____
- その他のエリア _____

□ 全てのスタッフ、生徒、及び訪問者が屋内で常時適切なフェイスマスクを着用するようにするための措置が講じられている。これらには以下が含まれる（該当するものすべてを選択）：

- スタッフ、保護者、生徒に、学校の始業前、及び学年を通じて定期的に、フェイスマスクの要件について通知する。
- 2歳以上の全ての生徒は、学校の屋内の敷地内にいる間は常にフェイスマスクを着用する。ただし、フェイスマスクの使用を妨げる飲食やその他の活動を行う場合は除く。 _____
- 2歳以上のすべての生徒は、キャンパス屋外の混雑した場所、および物理的距離を保つことが不可能であったり、現実的でない他の屋外スペースでもマスクを着用する。
- 生徒はアップグレードしたマスクを着用することが強く推奨されるが、必須ではない。布ではなく不織布を複数枚重ねてできた、ノーズワイヤーの付いた顔によくフィットするマスクが推奨される。本プロトコルにおいて、学校が一般生徒にアップグレードしたマスクを提供することを要求するものはない。ただし、現在でも、学校のキャンパスの屋内外の両方のスペースでは、適切なタイプのフェイスカバーを使用したユニバーサルマスク着用が必要である。飲食をしている場合や、物理的距離を確実に確保できる屋外スペースにいる場合などはユニバーサルマスク着用の例外となる。また、最近病気や陽性の検査検査の後に隔離を行った、または感染が確認された人に最近接触した生徒などの特別な状況では、限定された期間、性能の高いマスク着用が必要になる場合がある。
- 個別教育または504プランを利用しており、医療的理由によりフェイスマスクを使用または許容できない生徒に対応するために、代替の防護手段を採用する。そのような生徒は、耐えられる場合、下部にドレープが付いたフェイスシールドを代替として着用する。マスク着用を不可能にする健康状態、精神健康状態、障害もしくは健康機能障害による例外の評価は医療判断であり、よって医師、看護師、もしくは医師の資格のもとに活動する医療従事資格保有者が実施しなければならない。前述の状態に基づく自己申告や保護者による申告は、医療判断とは見なさない。学生が学校屋内でのマスク着用必須条件から免除されるには、適切に書面化された医療的理由による免除のみが許可される。個人的、または宗教的理由はマスク必須条件の免除にはならない。
- スタッフ、保護者、生徒に、使用後は毎日その度に布製マスクを洗うまたは交換することの必要性などを含む、フェイスマスクの適切な使用に関する情報が提供されている。 _____
- 学校の入口、学校のオフィスの入口、及び校舎全体に掲示されている標識には、フェイスマスク着用が強調されており、フェイスマスクの適切な使用法が描かれている。 _____
- 可能であれば、学年の初めに各生徒にフェイスマスクを2枚ずつ提供する。それが不可能な場合は、保護者と生徒に自家製のフェイスマスクを作成する方法に関する情報を提供する。 _____
- 年少の生徒の保護者は、子供が着用しているフェイスマスクが汚れた場合に備えて、毎日学校に2枚目のフェイスマスクを持参させることが推奨される。これにより、日中フェイスマスクを取り換えることができる。
- 学校の入口、廊下、またはその他の共有エリアに配置されている、物理的距離を強化するスタッフも、

フェイスマスクの着用に関する規則を生徒に促す。 _____

- 物理的距離を確保できない可能性のある活動（個々の生徒への理学療法や個人的なサポートの提供など）に従事する職員は、適切な個人用防護具（手袋、マスク、ガウンなど）を備えている。 _____

注：扉の閉まったオフィスに一人であるスタッフや生徒は、フェイスマスクを着用する必要はない。生徒は、食事や昼寝の際、又はその他でフェイスマスクを着用できない場合（例えば、水泳中やシャワーを浴びているときなど）、屋内でフェイスマスクを取り外すことができる。音韻認識指導を妨げない様にするためと、生徒が教師の顔を見えるように、学校は低学年の教師が顎の下にドレープの付いたプラスチック製のフェイスシールドをフェイスマスクの代わりに使用することが適切かどうかを検討する。唇と口が見える透明な部分のあるマスクもこの目的のために使用され、この特定の目的のために、その活動が免除を必要とする期間のみ、スタッフに対するマスクのアップグレードの要件の免除が許可される。

□ スタッフ、生徒、及び訪問者が頻繁な手洗いを促す対策を行うことが推奨される。これには以下が含まれる（該当するものすべてを選択）：

- 生徒とスタッフは、石鹼で20秒間手をよくこすって洗い、ペーパータオル（または使い捨ての布タオル）を使用して手を完全に乾かす機会が頻繁に与えられている。 _____
- 低学年の生徒には、食事の前後、トイレの後、野外遊びの後、グループ活動の前後など、こまめな手洗い休憩を定期的に予定に組み込む。 _____
- スタッフは頻繁な手洗いをモデル化するように指示されている。特に低学年では、トイレの時間が衛生的な習慣を強化し、適切な手洗いを監視する機会となる。 _____
- ポータブルな手洗いステーションが教室の近くに設置されており、トイレ内の人の移動と集まりを可能な限り最小限に抑える。
- 洗面台やポータブルな手洗いステーション（教室内またはその付近、サポートサービスが提供されている部屋、音楽室、美術室など）がない校内全体の要所で生徒とスタッフがエチルアルコールベース（エタノール60%以上）の手指アルコール消毒剤を利用できるようにする。学校環境ではエチルアルコールベースの手指アルコール消毒剤の使用が優先される。イソプロピルアルコールを主な主成分とする手指消毒剤は刺激性が高く、皮膚から吸収されるため学校では使用しない。 _____
- 手指アルコール消毒剤を誤飲すると、アルコール中毒を引き起こす可能性がある。手指消毒剤には自由にアクセスできるのではなく、9歳未満の子供は大人の監視下で使用する必要がある。教職員は誤飲のリスクを認識しており、生徒による手指消毒剤の誤飲を確信する理由がある場合は、中毒事故管理センター1-800-222-1222まで連絡する。 _____
- 手指消毒剤、石鹼と水、ティッシュとゴミ箱は、施設の入り口付近、受付、及び職場内のその他の場所、または人々が直接交流する建物のすぐ外で公衆が利用できるように配備する。 _____

舞台芸術に関する特別な検討事項

□ 音楽クラス

- グループでの音楽活動では、参加者は屋内外の両方でフェイスマスクを着用する。ただし、一人の場合は、屋外で他の人からの物理的距離を広く取る場合、および屋内のスタジオや扉の閉じた練習室の場合、マスクなしで練習することができる。
- 以下の安全策を行っている場合、グループで管楽器を演奏することは許可されている：
 - 金管楽器を演奏する人は、楽器を演奏している時にマウスピースを咥えられるように工夫されたマスクを適切に着用する必要がある。学生が練習や演奏をしていない時は、顔全体を覆うものに付け替える。
 - 屋内で金管楽器を演奏する時は、その楽器のベルカバーを使用する。

- 金管楽器演奏者¹とその他全ての²参加者の間に少なくとも3フィートの距離を保つ。
- グループでの練習や演奏に参加するワクチン接種を完了していない³全ての⁴人に、少なくとも毎週1回PCR検査か抗原検査を行う。
- 歌唱など、より強力で大量の呼吸器飛沫を発生させる活動の場合は、個人間の距離を増やし、これらの活動は屋外でのみ行うことが強く推奨される。個々の歌手は、屋外やスタジオや練習室の屋内でマスク無しで一人で練習したり、両者が本プロトコルに記載されている上記のガイダンスに従ってマスクを適切に着用している場合、1人のインストラクターと一緒に練習することもできる。歌手とインストラクターの間の距離を広くすることが推奨される。
- 楽器、部品、楽譜、またはその他のアイテムの交換（または共有）を制限する。
- 可能であれば、使い捨ての吸収パッドまたは他の用品を使用して、スピットバルブまたはウォーターキーの内容物を回収する。使用後は廃棄または適切に清掃する。

□ 演劇クラス

- 演劇クラスの学生とインストラクターは、常時フェイスマスクを着用する必要がある。参加者が声を上げている場合（例：演劇ワークショップの参加者）は物理的距離を拡大するよう推奨されている。
- 可能な場合は、小道具、衣装、かつらの共有を制限する。それらを共有する必要がある場合は、より簡単に消毒できる小道具、衣装、その他の素材を選択する。すべての小道具は、セットで最初に使用する前、及び異なる演者による使用ごとに消毒する。すべての共有衣類は、使用するたびに洗濯する。すべてのかつらまたは他の共有補綴物は、使用するたびに消毒する必要がある。
- EPAのリストN：COVID-19の消毒剤を使用して、更衣室、楽屋、及び制作現場を清掃する。
- 屋内ではなく、バーチャル方式または屋外でリハーサルとパフォーマンスを行うことを検討する。複数の人が一緒に活動に参加している場合は、常時マスクを着用する必要がある。

□ ダンスクラス

- 生徒とインストラクターは、常にフェイスマスクを着用する必要がある。水を飲むためにマスクを一時的に取り外すことができる。水飲み休憩中は、マスクを着用していない場合、他者との物理的距離を拡大するように注意する。学生は、フェイスマスクを着用している間は快適なレベルに運動を制限し、呼吸困難を経験し始めた場合は、すぐに休憩するように注意する必要がある。参加者が休憩したり呼吸を整える際に、スペース内の他者と適切な距離を置いている場合は、マスクを一時的に取り外すことができる。マスクが濡れた場合、顔に付着した場合、または呼吸を妨げる場合は、マスクを交換する。
- 激しい運動などの多くの呼吸器飛沫を発生させる活動の場合は、個人間の距離を拡大し、そのような活動は屋外のみで行うことが強く推奨される。
- 可能な限り練習とパフォーマンスには、屋外スペースを最大限に活用する。複数の人が一緒に活動に参加している場合は、は常時マスクを着用する必要がある。

□ 音楽の録音

- 規定通りに常時マスクを着用している間はサウンドブース/レコーディングブースでの歌唱は現在許可されている。比較的狭い限られた屋内空間に大量の呼吸器飛沫が放出されるため、歌手とブース内の全ての人との距離が拡大されることが強く推奨される。
- 他者がブース内にいる時にサウンドブース内で管楽器を演奏する事は、ミュージシャンが上記のすべての要件に準拠している場合に限り許可される。

- 歌手や管楽器演奏者は、密閉されたブース内に演奏者のみが入って一人で演奏する場合のみ、マスク及びその他の保護具無しでサウンドブース内で演奏することが許可されている。
- その他のグループの楽器の演奏は、サウンドブースを使用して録音できる。ただし、すべて演奏者間で常に最低3フィートの物理的距離を維持し、他の全ての活動と同様、マスクを着用することが必須となっている。
- ブースを別の演奏者または演奏者のグループが使用する前に、十分に換気して（空気清浄機の使用を検討する）、完全な空気の入替えを促進し、共有する機器（マイクなど）を消毒する。

□ パフォーマンス

- いかなるパフォーマンスも、COVID-19の拡散のリスクを減少するため、[小規模なイベント向け最善な方法](#)に従う必要がある。パフォーマンスやイベントが[メガイベント](#)（屋内の会場で500人以上の参加者、または屋外の会場で5,000人以上の参加者が集まるものと定義される）の場合、[メガイベントのガイド](#)に従う必要がある。
- 注：TK-12学校主催のパフォーマンスは、ワクチン接種の有無に関わらず、公演中の出演者を含む屋内にいる全ての参加者がマスクを着用することが必要となっている。現時点では、野外公演でも学生出演者は適切なフェイスカバーを着用しなければならない。公演が屋外メガイベントに該当しない場合は、観客は屋外でマスクを着用する必要はない。TK-12学校主催のパフォーマンスには、学校のキャンパスで開催されるか、学校外の会場で開催されるかに関わらず、学校が監督、組織、または後援する、及びカリキュラムまたは課外プログラムの一部として生徒を参加させる全ての舞台芸術活動が含まれる。

D. 学校内のコミュニティ、及び一般市民とコミュニケーションを図るための対策

□ 学校の方針に関する情報が学校の始業前に保護者と生徒に送付されている（該当するものをすべて選択）：

- 症状がある、もしくはCOVID-19に曝された可能性のある生徒に適用される隔離及び検疫ポリシー
- 生徒またはその家族が発症している、またはCOVID-19感染者と接触のあった場合のCOVID-19検査のオプション _____
- 生徒に症状がある、または感染した可能性がある場合の学校での連絡先 _____
- 生徒が自宅を出る前に症状の検査を行う方法 _____
- フェイスマスク着用の必要性 _____
- いかなる物理的距離と感染防止ポリシーに対する生徒の承諾の重要性 _____
- リスクを回避するための学業及び課外プログラムの変更 _____
- 保護者の学校訪問に関する学校の方針と学校に遠隔で連絡することの推奨 _____
- 複数の保護者の連絡先オプションを含む最新の緊急連絡先情報を学校に提供することの重要性 _____
- その他: _____

□ 本手順のコピーを、学校のすべての公共の入口に掲示し、学校または学区のウェブサイトの公開ページにアップロードする。

□ 学校全体に看板を掲示して、スタッフと生徒にフェイスマスクの着用、及び手洗いの重要性に関するポリシーを通告する。

□ COVID-19の症状がある場合は施設に立ち入ってはならないことを訪問者に通知する看板を学校の各公共の入口に掲

示している。

- 学校は、COVID-19 の症例のグループの可能性による完全または部分的な学校閉鎖が必要な場合に備えて、コミュニケーション計画を作成し、配布している。
- 学校のオンライン情報（ウェブサイト、ソーシャルメディアなど）は、開校時間、訪問に関する方針、学業及び課外プログラムの変更、フェイスマスクの着用、物理的距離、及び手洗いにに関する要件について、明確かつ最新の情報を提供している。
- オンライン情報は、感染やウイルスへの曝露が考えられる場合に学校に連絡する方法を生徒、保護者、及び教員に指示している。

E. 重要なサービスへの平等なアクセスを確保するための対策

- 特別なニーズを持つ生徒の個別教育計画（IEP）及び 504 プランが更新され、生徒に過度のリスクを与えることなく教育を継続できるようになっている。
 - この計画には、新学期の初めに保護者と積極的に連絡を取り、生徒の教育と安全に関連する問題に確実に対処する方法が含まれる。
 - 個々のIEPと504プランの変更には、遠隔学習、生徒数の少ない分離されたエリアでの学校への出席、またはクラス内学習と遠隔学習を組み合わせたハイブリッドアプローチが含まれている。
 - IEPや504計画を変更するために講じた措置とは、生徒の安全を確保するために、州法及び連邦法の関連規定に準拠していることを保証する。
- 遠隔で提供できる総務サービスまたは運営（クラスの登録、フォームの送信など）はオンラインに移行する。

企業は上記に含まれていない追加対策について別紙に記載し本文書に添付してください。

本手順に関するご質問やご意見は、以下の者までご連絡ください。

担当者名: _____
電話番号: _____
最終更新日: _____

本文書に含まれる必須手順の概要

- 学校はキャンパス内で COVID-19 を予防し、拡散を抑制する包括的アプローチを説明する、COVID-19 抑制、対応、制御計画を準備する必要がある。
- 公衆衛生局に従う [学校での感染管理計画](#) を始める計画、又は手順。
- 症例のクラスター（14 日以内に 3 件かそれ以上の症例）を、公衆衛生局に直ちに通知する計画。
- 通常の学校運営に COVID-19 検査を組み込む計画、又は手順。これは少なくとも、症状のある、又は SARS-CoV-2 に感染している、もしくは感染の疑いのある人物と接触のあった生徒や職員が検査にアクセスできることを確認する戦略を説明する必要がある。
- 症状のある、又は COVID-19 感染者と接触のあった全ての職員は、出勤しないようにと伝えられている。
- 学校の敷地内や交通手段（スクールバスと学校の建物）に入る、他者（生徒、保護者、他の職員）と接触のある全ての人物は、ワクチン接種の状況に関係なく、屋内でフェイスマスクを着用する必要がある。
- 学校職員は、より高いグレードのマスクを着用する必要がある。医療用マスクが最低限の要件である。より高いレベルのPPE（例えば、KN95またはN95高性能マスクも検討する）。

- 学生と職員は、物理的距離を簡単または確実に維持できない混雑した場所にいる場合は、飲食している場合を除き、屋外スペースでマスクを着用する。
- マスクを着用することを難しくする健康状態、精神状態、身体、または聴力障害によるマスク免除の評価は、医療的決断であり、医師、ナース・プラクティショナー、またはその他の医師免許の元に開業している免許を持つ医療従事者によって行われる必要がある。
- 全ての職員、敷地内の請負業者、供給業者、配達員は、屋内で他者の周りにいる場合にフェイスマスクの着用が必要であることに関する指示が提供されている。
- 本文書のコピーが全ての職員に配布されている。
- バスの中では常時フェイスマスクを着用する必要がある。
- 学校が始まる前に、COVID-19 予防に関するポリシーの情報を、保護者と生徒に配布する必要がある。
- 本文書のコピーが学校の全ての公共の入り口に表示され、学校や学区のウェブサイトに市民が閲覧できるようにアップロードしてある。
- 学校中に、スタッフと生徒にフェイスマスク使用と手洗いの重要性に関するポリシーを知らせる標識が表示されている。
- 学校の各公共の入り口に、COVID-19 の症状を持つ訪問者は施設に入場しないことを知らせる標識が表示されている。
- 生徒に過度のリスクなしで教育が続けられることを確認するために特別なニーズを必要とする生徒向けの個人的学習計画 (IEP) や 504 を更新する計画が開発されている。
- 州公衆衛生担当官の命令により、各校全職員は COVID-19 ワクチン接種完了証明書の提出、又は少なくとも週 1 回の検査が義務付けられている。